



佐井村の魅力を探る 外国人観光客 ニーズ調査を実施

1月21日（土）から24日（火）までの3泊4日で佐井村でのインバウンド（訪日外国人旅行）の可能性を探り、村内での滞在型観光プログラム開発を目的として、外国人観光客ニーズ調査を行いました。

モニターとして、台湾やマレーシア、ロシア、スペインなど8カ国10人の留学生が参加し、佐井村の文化・自然・食などのさまざまな体験をおして、現地に住む私たちが普段何気なく過ごしている村の見落とされている地域資源や新たな観光資源の発掘に協力してくれました。

した。

宮城県丸森町でのインバウンド事業などさまざまな事業を行ってきた「株式会社侍」の太見洋介氏の講演があり、これからインバウンド事業に取り掛かるにあたって、どのように取り組んでいけばいいのか、自身の活動の紹介も踏まえながら地域が一体となって行う招致の重要性などが述べられました。

講演終了後は、グループに分かれて留学生たちとのワークショップを行い、4日間の滞在でやってみたいことや、日本での生活や観光で感じたこと、これまでの観光で感動した場所など、留学生たちの率直な意見に触れ、さまざまな声を聴くことができました。

2日目、3日目は実際に村内での体験プログラムを行いました。北限のサルを探りに雪山の中に入ったり、絶景の冬の仏ヶ浦を散策したり、矢越の神楽の体験や裂織、ベこもちづくり、ガラス玉細工、まち歩きなどの多くの体験をしました。中でも人気があったのは福浦の歌舞伎で、化粧をしてみたい、衣装に袖を通して、演技指導まで行われました。

3日目の最後に行われた感想共有会では、留学生たちの素直な感想を聞くことができ、また、これからの課題として、ベジタリアンなど食事に制限のある人への対応や、個人旅行で来た際に地元の人と触れ合える場所が少ないことなどがあげられました。

- 写真について
- ①北限のサル探し
 - ②裂き織り
 - ③まち歩き
 - ④ベこもちづくり
 - ⑤ガラス玉細工
 - ⑥冬の仏ヶ浦散策
 - ⑦福浦の歌舞伎
 - ⑧矢越神楽